

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	医療機能充実事業				財務会計上の事業名	—
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	2	7	1	1	担当部署名	医療管理課
総合計画の体系	章	第2章みんなが健康でいきいきと暮らせるまち				
	節(施策)	第7節市立池田病院を拠点とした地域医療体制の充実				
	項目	項目1 診療機能の充実				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	救急医療や小児医療、周産期医療、災害時医療の4事業や入院診療を中心とした医療機能の充実を図る。
めざす姿(目標)	地域の急性期病院としての役割を担うため、救急診療や医療機能の充実を図る。
事業の対象(誰を、何を)	救急・小児科並びに周産期医療等
事業の手段・方法(どのように)	受入体制の充実を図り、医療機能を強化。
実施形態(直営/委託)	直営
関連計画	

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度
	(決算)	(決算)	(予算)
事業費(千円) A			
主な内訳			
財源	国・府支出金		
	地方債		
	その他()		
	うち受益者負担 B		
	一般財源 C		
一般財源比率 C÷A			
受益者負担率 B÷A			

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
☆成果の達成状況	病床利用率	90.2%	91.5%	93.0%
	時間外救急患者数	7,518人/年	7,580人/年	8,000人/年
	新入院患者数	878人/月	971人/月	930人/月
	平均在院日数	11.9日	10.7日	11日
☆有効性・効率性	・上記「達成状況」選択の理由	A.順調に推移している		
	☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)		
	☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)		
	・上記「有効性・効率性」選択の理由	各指標の実績が策定時に比べ向上しており、一定の成果を得られている。効率性については、各指標が救急診療及び医療機能が充実しているかの目安となっており、重症患者等の積極的受け入れ、円滑な入院支援やベットコントロールの充実を更に図ることにより、成果の達成を目指す。		

5 事業の現況と今後の見通し

本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)	
<p>国・府において地域医療構想の推進が図られる中、市立池田病院は、今後も地域医療の中心的役割を担っていくため、更なる救急診療や医療機能の充実が求められている。また、小児医療や周産期医療については、同構想において将来に向けた機能の集約化が必要と考えられており、今後の市立池田病院の診療体制の在り方についても議論が進められていくと認識しているもの。</p>	
目標達成に向けた課題	課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性
重症患者等の積極的受け入れ、円滑な入院支援やベットコントロールの充実を更に図ることにより、成果の達成を目指す。	<p style="text-align: center;">拡充</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 成果指標は順調に推移しており、今後も病床稼働率の増、近隣市町救急隊の受入、新規入院患者数の増等に取り組み、更なる充実を図っていく。</p>

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	医療従事者確保事業				財務会計上の事業名	—
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	2	7	1	2	担当部署名	総務課(市立池田病院)
総合計画の体系	章	第2章みんなが健康でいきいきと暮らせるまち				
	節(施策)	第7節市立池田病院を拠点とした地域医療体制の充実				
	項目	項目1 診療機能の充実				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	地域の基幹病院として求められる医療機能の維持・向上のため、質の高い医療従事者を確保する。
めざす姿(目標)	職員数の定数を確保する。
事業の対象(誰を、何を)	助産師・看護師数
事業の手段・方法(どのように)	広報誌や市のホームページに加え、インターネットによる医療職に特化した求人広告を積極的に活用し、継続的に募集活動を行う。
実施形態(直営/委託)	一部委託
関連計画	

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A	7,020	4,381	4,900	助産師・看護師人数	297人	297人	320人	
主な内訳	広告料	44	295					
	委託料	1,576	1,686					
	修学資金貸付金	5,400	2,400					
☆成果の達成状況					A.順調に推移している			
財源	国・府支出金			・上記「達成状況」選択の理由	人数の増加は見られないものの、退職者補充にかかる募集においてコンスタントに応募があり、人員確保が困難な状況ではないため。			
	地方債							
	その他()							
	うち受益者負担 B							
一般財源 C	7,020	4,381	4,900	☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)			
一般財源比率 C÷A	100.0%	100.0%	100.0%	☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)			
受益者負担率 B÷A				・上記「有効性・効率性」選択の理由	人数の増加は見られないものの、退職者補充にかかる募集においてコンスタントに応募があり、新卒・既卒いずれの採用においても効果が表れ始めている。			

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現状と今後の見通し

<p>本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>求人広告において、新聞折込をはじめとする従来の方法では読者・エリア等が限定され、効果的な広告とは言い難い状況。昨今はスマートフォン、タブレット端末の普及により、求職者が募集状況、待遇等の検索・比較等が容易に行える専用サイトが開設されており、これらのサイトから情報を得た応募者が増加している。</p>	
<p>目標達成に向けた課題</p> <p>募集活動の多角化が求められる一方で、採用した職員をいかに定着させるかが今後の課題であり、働き甲斐のある、働きやすい職場づくりも視野に入れる必要がある。</p>	<p>課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性</p> <p>現状維持</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 人数の増加は見られないものの、退職者補充にかかる募集においてコンスタントに応募があり、新卒・既卒いずれの採用においても効果が表れ始めていることから、今後も本事業を継続していく。</p>

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	休日急病診療所管理運営事業				財務会計上の事業名	休日急病診療所管理事業 休日急病診療所運営事業
第3期実施計画の区分 章/節(施策)/項目/事業番号	2	7	1	3	担当部署名	休日急病診療所
総合計画の体系	章	第2章みんなが健康でいきいきと暮らせるまち				
	節(施策)	第7節市立池田病院を拠点とした地域医療体制の充実				
	項目	項目1 診療機能の充実				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	休日急病診療所の適切な管理運営を行うとともに、市内の医療機関が休診の日曜・祝日・年末年始に内科・小児科・歯科診療を実施する。
めざす姿(目標)	休日急病診療所の存在を広くPRし、来院患者を増加させるとともに、診療内容を充実させる。
事業の対象 (誰を、何を)	管理事業: 休日急病診療所 運営事業: 池田市民
事業の手段・方法 (どのように)	管理事業: 通信運搬費、機器借上料、病院企業会計操出金(管理経費、光熱水費、使用料) 運営事業: 日曜・祝日・年末年始の診療(内科・小児科・歯科) 午前9時～午後4時
実施形態(直営/委託)	一部委託
関連計画	

3 事業費等

区分	H30年度 (決算)	R元年度 (決算)	R2年度 (予算)	指標 (活動・ 成果)	指標の内容	実施計画策定時 (H30年度)	実績 (R元年度)	目標値 (R4年度)			
	事業費(千円) A	59,114	57,894						58,265		
主な内訳	報償金	30,644	37,448	33,761	患者数	3,699人/年	3,648人/年	4,000人/年			
	病院企業会計操出金	13,830	13,848	14,556							
	医薬材料費	6,453	4,418	4,500							
☆成果の達成状況					C.判断できない						
財源	国・府支出金				・上記「達成状況」選択の理由	受診者数は診療日数や流行性の疾患が大きく影響するため。					
	地方債										
	その他(使用料及び手数料等)	38,653	36,788	35,232					☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)	
	うち受益者負担 B	38,653	36,788	35,232					☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)	
	一般財源 C	20,461	21,106	23,033					・上記「有効性・効率性」選択の理由	休日、特にゴールデンウィークや年末年始等の長期休日の時に医療を提供するサービスは市民にとって必要である。	
一般財源比率 C÷A	34.6%	36.5%	39.5%								
受益者負担率 B÷A	65.4%	63.5%	60.5%								

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現状と今後の見通し

本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)	
<p>休日診療の受診者の増減は従来からインフルエンザ等、流行性の疾患の影響を受けており、今回の新型コロナウイルスの流行も影響を与えている。感染症の第1波時は医療機関での感染を避けるため、症状の軽い患者は受診を控える傾向がみられ受診者数が減少した。今後も患者数の変動が続くと予測され、受診者数の増減は予測がつかない状況である。</p> <p>休日診療時に新型コロナウイルス感染症疑いの患者が受診する際は、受診時の経路の分別や防護服の着用など患者の状態に応じた感染対策を実施している。医療職以外のスタッフも受付時からマニュアルに沿って適切に対応しており感染防止対策を徹底して継続していくことが必要である。また感染対策に必要な物品の在庫管理も必須である。</p> <p>歯科に関しては昨年度同様受診者数は少なく、診療形態について歯科医師会との協議を継続する。</p>	
目標達成に向けた課題	課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性
受診者が不安なく診察を受けられるような体制を整え、状況に応じて改良する。	現状維持 《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 新型コロナウイルス感染症の流行に応じた対応。

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	地域医療連携強化事業				財務会計上の事業名	—
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	2	7	2	1	担当部署名	医療管理課
総合計画の体系	章	第2章みんなが健康でいきいきと暮らせるまち				
	節(施策)	第7節市立池田病院を拠点とした地域医療体制の充実				
	項目	項目2 地域医療連携の充実				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	地域の診療機関及び市民を対象とした講演会や勉強会を実施する。また、病院・診療所間の診療情報共有のためのシステム化を推進する。
めざす姿(目標)	地域医療支援病院として期待される医療機能の充実を図る。また、紹介率及び逆紹介率を向上させることにより、診療所などとの相互連携を強化する。※紹介率…当院を受診した初診患者のうち、他の医療機関からの紹介状を所持し受診した患者数の割合。逆紹介率…初診患者のうち、他の医療機関へ紹介した患者数の割合。
事業の対象(誰を、何を)	地域医療機関及び市民
事業の手段・方法(どのように)	講演会・勉強会の充実
実施形態(直営/委託)	直営
関連計画	

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A					紹介率	77.5%	78.5%	80.0%
主な内訳					逆紹介率	67.8%	66.0%	70.0%
☆成果の達成状況					A.順調に推移している			
財源	国・府支出金				・上記「達成状況」選択の理由	指標値では、逆紹介率は減少しているが、逆紹介患者数自体は増加している。講演会・勉強会を実施することで、病診連携の強化や地域医療の確保につながっている。		
	地方債					☆目標達成のための有効な事業内容となっているか		
	その他()				☆事業は効率的に実施できているか			
	うち受益者負担 B				A.効率的である(改善の余地がない)			
一般財源 C				・上記「有効性・効率性」選択の理由	指標値は順調に推移し一定の成果は出ているが、かかりつけ医への働きかけを強化することで、指標値数の増加が期待できる。			
一般財源比率 C÷A								
受益者負担率 B÷A								

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現状と今後の見通し

<p>本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>国・府において地域医療構想の推進が図られる中、市立池田病院は、今後も地域医療の中心的役割を担っていくため、更なる医療機能の充実が求められている。</p>	
<p>目標達成に向けた課題</p> <p>地域の医療機関向けの勉強会や市民公開講座を実施し、地域医療支援病院としての役割を着実に果たしていく。また、病院幹部による地域の医療機関への訪問や病院・診療所間の診療情報共有のためのシステム化の推進により病診連携強化を図るとともに、院内医師の逆紹介に対する意識向上に努める。</p>	<p>課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性</p> <p>拡充</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 地域の医療機関向けの勉強会や市民公開講座を継続的に実施し、地域医療支援病院としての役割を着実に果たしていく。また、病院幹部による地域の医療機関への訪問、診療情報共有のためのシステム化の推進により病診連携強化を図るとともに、院内医師の逆紹介に対する意識向上に努める。</p>

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	広域医療連携強化事業				財務会計上の事業名	—
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	2	7	3	1	担当部署名	医療管理課
総合計画の体系	章	第2章みんなが健康でいきいきと暮らせるまち				
	節(施策)	第7節市立池田病院を拠点とした地域医療体制の充実				
	項目	項目3広域医療の充実				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	近隣病院や高度な医療機能を有する大学病院、特定機能病院などとの連携を強化する。
めざす姿(目標)	医療機関連携の強化を図ることにより、がん治療地域連携パス(診療計画表)登録医療機関の更なる増加をめざす。
事業の対象(誰を、何を)	市立池田病院と他の医療機関
事業の手段・方法(どのように)	がん治療地域連携パス(診療計画表)の活用と病院間における情報システムのネットワーク化
実施形態(直営/委託)	直営
関連計画	

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A					肝がん登録医療機関数	8機関	8機関	8機関
主な内訳					乳がん登録医療機関数	57機関	65機関	65機関
					胃がん登録医療機関数	48機関	47機関	56機関
☆成果の達成状況					A.順調に推移している			
財源	国・府支出金				・上記「達成状況」選択の理由	乳がん登録医療機関数は増加しており、その他の疾患もほぼ現状を維持しているため。今後もがん治療地域連携パスの種類や登録医療機関数の拡充を進めていく。		
	地方債							
	その他()				☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)		
	うち受益者負担 B				☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)		
一般財源 C				・上記「有効性・効率性」選択の理由	本事業は、情報システムのネットワーク化やがん治療地域連携パスで広域医療を強化していくもので、大阪府がん診療拠点病院として、近隣市町のみならず広範囲の医療機関と連携するためには、引き続きがん治療地域連携パスの種類拡大が必要。			
一般財源比率 C÷A								
受益者負担率 B÷A								

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現況と今後の見通し

本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)	
国・府において地域医療構想の推進が図られる中、市立池田病院は更なる医療機能の充実とともに、大学病院等との広域連携により、地域における安全・安心な医療を提供することが求められている。	
目標達成に向けた課題	課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性
本事業は、情報システムのネットワーク化やがん治療地域連携パスで広域医療を強化していくもので、大阪府がん診療拠点病院として、近隣市町のみならず広範囲の医療機関と連携するためには、がん治療地域連携パスの種類拡大が必要。	<p>拡充</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 今後、がん治療地域連携パスの内容精査と種類拡大については、医療職を中心に進めていく。</p>

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	広域医療対策事業				財務会計上の事業名	広域医療対策事業
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	2	7	3	2	担当部署名	健康増進課
総合計画の体系	章	第2章みんなが健康でいきいきと暮らせるまち				
	節(施策)	第7節市立池田病院を拠点とした地域医療体制の充実				
	項目	項目3広域医療の充実				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	豊能地域二次医療対策事業に係る運営費及び豊能広域こども急病センター運営費の一部を4市2町で負担する。
めざす姿(目標)	豊能地区における二次救急及びこども急病について、空白時間帯の安定した医療を確保する。
事業の対象(誰を、何を)	市民
事業の手段・方法(どのように)	豊能広域こども急病医療センターおよび豊能地域二次救急医療対策の運営費を、池田市・豊中市・箕面市・吹田市・豊能町・能勢町の4市2町で負担する。
実施形態(直営/委託)	直営
関連計画	

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A	11,514	5,911	11,574	受診者数		2,900人/年	2768人/年	3,000人/年
主な内訳								
負担金	11,514	5,911	11,574					
☆成果の達成状況					A.順調に推移している			
財源	国・府支出金			・上記「達成状況」選択の理由	休日、祝日、夜間の救急や緊急時における医療対応を行った。			
	地方債							
	その他()							
	うち受益者負担 B							
一般財源 C	11,514	5,911	11,574	☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)			
一般財源比率 C÷A	100.0%	100.0%	100.0%	☆事業は効率的に実施できているか	B.改善の余地がある			
受益者負担率 B÷A				・上記「有効性・効率性」選択の理由	小児救急を取り巻く状況や受診者数の変化に応じ安定的に継続させていく必要がある。			

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現状と今後の見通し

<p>本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>4市2町で運営することで、池田市民を始め多くの方々がいざという時に緊急で対応してくれる医療機関を確保できていることは、大変有意義なことだと思われる。</p>	
<p>目標達成に向けた課題</p> <p>毎年患者数の増減で、各市町の負担金額に変動がある。</p>	<p>課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性</p> <p>現状維持</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 対応する医師等の人数など、節減に工夫をこらして行く。</p>

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	経営健全化事業				財務会計上の事業名	—
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	2	7	4	1	担当部署名	経営企画室
総合計画の体系	章	第2章みんなが健康でいきいきと暮らせるまち				
	節(施策)	第7節市立池田病院を拠点とした地域医療体制の充実				
	項目	項目4経営の健全化				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	地域の基幹病院として、救急医療などの政策医療を継続的に担う上で必要となる安定的な経営基盤を確立する。
めざす姿(目標)	医業収支比率を向上させるとともに、当年度純損益を改善させる。
事業の対象(誰を、何を)	市立池田病院事業
事業の手段・方法(どのように)	・新入院患者の増加や診療単価の引き上げなどによる収益性の向上 ・追加的な経費削減策の検討及び実施
実施形態(直営/委託)	直営
関連計画	

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値 (活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時 (H30年度)	実績 (R元年度)	目標値 (R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A					医業収支比率	97.4%	101.2%	100.4%
主な内訳					当年度純損益	-329,141,000円	-254,956,111円	81,095,000円
☆成果の達成状況					A.順調に推移している			
財源	国・府支出金				・上記「達成状況」選択の理由	当年度純損益については依然として損失を計上しているが、医業収支比率については100%を上回っており、目標を達成しているため。		
	地方債							
	その他()				☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)		
	うち受益者負担 B				☆事業は効率的に実施できているか	B.改善の余地がある		
一般財源 C				・上記「有効性・効率性」選択の理由	医業収支については黒字化を達成しているが、経営改善に必要な半年度収支での黒字化は達成されおらず、そのための方策を検討していく必要があるため。			
一般財源比率 C÷A								
受益者負担率 B÷A								

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現況と今後の見通し

<p>本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>公立病院は、地域における基幹的な公的医療機関として、地域医療の確保のために重要な役割を果たしているものの、一方で、経営状況の悪化や医師不足等による診療体制の縮小など、経営環境や医療提供体制の維持が極めて厳しい状況にあるところが多く、抜本的な改革が求められているところ。総務省が示す新公立病院改革ガイドラインに基づき、さらなる公立病院改革が求められているところ。昨年9月には厚生労働省所管の検討会「地域医療構想に関するワーキンググループ」において、再編統合の必要性について再検証を求める公立・公的病院等が実名で公表されたところ。経営状況の改善のみならず、統合再編についても検討が求められているところ。</p>	
<p>目標達成に向けた課題</p> <p>本業部分での収支である医業収支は黒字を達成しているものの、医業外収支での黒字化は困難な状況であり、結果として当年度純損益は赤字となっている。医業外収支に関しては、費用として消費税雑損失が多額であるものの、それを賅う収益は一般会計繰入金が大部分であり、それも削減を求められているため、医業外収支の赤字は増加傾向にある。当年度純損益での黒字化を達成するためには医業外収支での赤字を賅えるだけの医業収益の確保が必要であるが、現状ではそこまでの黒字化を達成できず、いかにして医業外収支での財源を確保するかが課題であると考えている。</p>	<p>課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性</p> <p>現状維持</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 劇的な収支改善を望むことは難しく、収益性の向上と経費の削減を着実に進めていくことが重要。そうした取り組みの結果として、平成29年度決算から3年連続で医業収支が黒字化したものと分析。今後の医療需要を踏まえた新たな診療機能の追加など、これまでと同様に、費用対効果を検討した収益確保と費用の削減に努めていくもの。</p>